

“砺波創生まちづくり” となみーていんぐ” 参加者及び録画配信視聴者 からのご意見・ご提案の要旨について

以下は、“砺波創生まちづくり” となみーていんぐ” 参加者及び録画配信視聴者からの
砺波市総合計画等に関するご意見・ご提案について、以下のとおり要旨をまとめたもの
です。

- ・ “砺波創生まちづくり” となみーていんぐ” 参加者から後日いただいた砺波市総合計画
等に関するご意見・ご提案のうち、当日の発言と重なるものは一つにまとめています。
- ・ 一人で複数のご質問やご意見、ご提案をいただいた場合、ご質問等の内容ごとにまと
めています。

1 “砺波創生まちづくり” となみーていんぐ” の概要（会場別）

（1）出町中学校区

- ・ 令和3年10月22日（金） 午後7時～8時35分
- ・ 出町小学校地域開放ホール
- ・ 参加者61名



（2）庄西中学校区

- ・ 令和3年10月25日（月） 午後7時～8時47分
- ・ 砺波東部小学校地域開放ホール
- ・ 参加者51名



(3) 般若中学校区

- ・令和3年10月27日(水) 午後7時30分～9時15分
- ・般若農業構造改善センター
- ・参加者29名



(4) 庄川中学校区

- ・令和3年10月28日(木) 午後7時～8時48分
- ・庄川生涯学習センター
- ・参加者32名



2 意見等の概要（地区順）

● 出町地区 女性

学校の課題研究で空き家を減らす研究に取り組み、その一環で空き家取得者を対象に調査をした。千葉県からの移住者から「賃貸物件だと取得しやすい」という意見を聞いた。空き家の賃貸物件は少ないのが現状。市内の空き家件数約400戸のうち空き家情報バンクへの登録が僅か20数戸程度。空き家情報バンクへの登録件数が少ないのも問題。もっと増えるように、空き家の所有者が売りやすくなるような施策はあるか。

● 庄下地区 男性

庄西中学校は昭和61年に新校舎が完成してから35年が経過。耐用年数には未だ余裕があるが、耐震改修がされていない最も古い建物になっている。身障者用のエレベーターがない。トイレの水周りや給食室のシャッターに不具合などがある。早急に改善をお願いしたい。

● 庄下地区 男性

国道359号砺波東バイパスの4車線化について、2019年に伊加流伎大橋まで開通し大変便利になった。出町市街地から東側は4車線の計画だが2車線のまま止まっている。4車線化に向け、早期整備をお願いしたい。

● 庄下地区 男性

住民の移動について。砺波市は車に頼らないと生活できない地域。特に問題になっているのは高校生の通学、高齢者の通院、買い物、お出かけの不便さ。持続可能性のあるまちづくりにとって移動の利便性が大事だと思うが、住み続けられない状況にある。発想を変えて新しい地域モビリティを考えていただきたい。

JR城端線について、将来的にLRT化を目指すとしても費用や時間がかかるので、その前に城端線の改善（増便、ダイヤ適正化、パーク&ライド等）等、できることから取り組んで欲しい。

バスについて、市営バスとデマンドタクシーを組み合わせる整備を進めて欲しい。

● 庄下地区 男性

GIGAスクール構想の実現に向けたロードマップについて知りたい。また、地域ICTクラブは大人と子供がプログラムを学ぶ場として設立され活動しているが、デジタル技術の活用施策の議論に、地域ICTクラブの活用等を加え、官民学が一体となって取り組んでほしい。

● 庄下地区 男性

SDGsの取り組みについて、その内容を多くの人が分からないでいる。市からの出前講座をもっと増やして欲しい。

● 庄下地区 男性

単純に地域ブランド化は成功しないことが多い。なぜなら、産地の信頼度が優先され、信頼の無い、分からない町のものは誰も買わなくなってくるから。

砺波市の名前のブランド化が必要。「チューリップのあるとこだね」と言ってもマーケティング理論から見れば、チューリップはどこにでもある、差別化されない現実がある。

砺波市をブランド化するためにも「教育のまち」を構築し、「教育のことは砺波市に聞け」と言われるくらいの教育のまちを目指して欲しい。

商標のデザインを、例えば、富山大学の学生に依頼すれば、マーケティング市場でのマスコミの反応が大きく変わる。商標マークは多くの商品に使用可能である。

● 五鹿屋地区 男性

五鹿屋地区ではかいよの剪定枝の処分に困っている。昔は野焼きで処理していたが今は法律で禁止されている。代表的な散居住宅における剪定枝の年間排出量は実績で1 t程度と聞いている。軽トラなら5回分。そんなこと一般の世帯ではできない。また、クリーンセンターとなみに持って行くと1回につき1時間半も待たなければならない。免許を返納した高齢者は何もできない。

こうした現状に鑑み、田んぼの真ん中で焚き火ぐらいは許していただきたい。

● 五鹿屋地区 男性（追加質問）

野焼き禁止の法律の主旨は理解しているつもり。法案が成立したのはダイオキシン対策が主だったと思うが、今はダイオキシンの発生が少なくなっている。法律は今の時代に合わなくなっている。

● 東野尻地区 男性

砺波南部小学校は昭和60年建設で37年経過し耐用年数基準に近づきつつある。小学校は防災拠点としての役割もある重要施設であり、砺波南部小学校の建替えを早く検討して欲しい。

● 鷹栖地区 男性

県外の人に砺波市を紹介するときに、正しく読んでもらえないことが多くある。観光客や移住者を誘致する場合などに読みにくい名前はマイナスになる。

少しでも多くの人に砺波市を知ってもらい、覚えてもらうため、漢字の「砺波市」から、ひらがなの「となみ市」への改名を提案する。

現在でも様々なところでひらがなの「となみ」が使われているが、正式名称で表記されることも多くある。なので正式名称も「となみ市」にすることで、読み方が分からずにスルーされてしまうことが少なくなる。

● 鷹栖地区 男性

現在、コロナウイルスの流行によって都市部への一局集中を見直して、地方へ移住する動きがある。その中で移住希望者を取り込めるか否かが人口を増加させるカギになる。

移住を考える上で障害となるのが仕事で、今働いている会社を辞めて移住をするのは高いハードルがある。

しかし、フリーランスの人やリモートワークで仕事をしている、インターネットさえあればどこに住んでいても関係なく仕事が出来るという人が増えている。私自身もフリーランスのデザイナーであり、どこでも仕事をするのが可能なため、住みやすさなど生活面だけで移住先を決めた。今のコロナは社会的には非常に困難な状況だが、地方への移住を考える人が増えているということは地方都市にとってはチャンスとも言える。もちろん、大きな企業を誘致することも街の発展に効果が高いと思うが、一人一人の移住者を増やすということで、移住しやすいフリーランスやリモートワークの移住者をターゲットにするのも効果があると思う。

● 鷹栖地区 男性

砺波市の会社や人はICTやデジタル技術に疎い印象があり、その必要性を知らない、または感じていない人も多くいると思う。市ではデジタルトランスフォーメーションを掲げてICTを促進しているが、市民までそれが伝わっていないと感じる。もっと「これからの世の中では、ICT技術を活用していく必要がある」と啓蒙していく必要があると思う。市だけが頑張っても、市のサービスやシステムにICTを取り入れたとしても便利にはなるかもしれないが、街は発展しない。市民一人一人が勉強をして、技術を習得していくことが必要だと思う。

それには市民一人一人の意識を変えていかなければならない。そのための啓蒙活動を市としてもやっていただきたいと思う。

また、市民の中にも技術も持っている人がいると思うので、例えばHPの作成などICT技術を持つ市民から技術を教えてもらい、活用していけるような勉強会なども開催すれば良いと思う。

● 鷹栖地区 男性

私はボランティアで子供にプログラミングを教える活動や、市民大学「市民の先生」でHPを作る講座などを行っているが、それらを始めるときには苦労した。砺波市で活動を始めるに当たって、「支援などが得られるのか」や「助成金などがあるか」などを市役所に相談に行ったが、何回もいろいろな課の人に話をし、欲しい情報を手に入れた。つまり、市役所の職員と顔見知りになり顔を繋がないと市の支援が受けにくい形になっていると思う。以前に活動していた岐阜市の例だが、市民活動の相談窓口があり、まずそこに相談すると、サポートし、活動を応援してくれる体制があった。市民の力をもっと活用していくという観点から、砺波市でも市民活動の支援体制を作っていただきたい。

● 鷹栖地区 男性

砺波チューリップ公園には、チューリップフェアの期間中はいろいろな出店（でみせ）が来るので楽しめるが、期間以外は、休憩をしたり寒さや暑さをしのいだりできる店がない。マルシェなどイベントをやっていないときは、ただの大きな公園でしかなく、公園に行く理由が乏しい。

「砺波チューリップ公園にスターバックスを」は例だが、おしゃれなカフェや飲食店など、食事や休憩が出来る常設の店舗があると、普段から公園を訪れる人がいて活気が出ると思う。毎年チューリップフェアの期間中だけ出店や屋台が出るスペースも、普段は何もない空き地となっており、もったいないと感じる。有効に活用できるといいなと感じる。

● 鷹栖地区 男性

公共下水道の整備エリアから外れた地域について、上水道の整備を優先していただけるか。公共下水道の整備エリア内では、下水道と上水道がセットで整備されている。エリア外では合併処理浄化槽設置への助成があるのみ。浄化槽に合わせて上水道の整備も必要。上水道が老朽化しているため、上水道の整備を優先的にしていただければありがたい。

● 鷹栖地区 男性

児童へのタブレット端末の配付は良いと思うが、使用上問題が起きたときに先生が対応していたのでは先生の負担が大きくなるばかり。民間委託などサポート体制が整っているか。

● 鷹栖地区 男性

市道について、経年劣化でアスファルトに亀裂が入っている所が多い。また、市道左右側端に引かれている白線が消えて殆ど見えない所が多い。高齢者や生徒が歩いたり、自転車で通行する者も多々いる。

是非、白線の補修をお願いしたい。

● 若林地区 男性

若林の全地区に下水道が入らないことになった。公共下水道と合併処理浄化槽の設置者の負担があまりないようにと要望していたが、対応いただけると聞いた。

大変ありがたいことと感謝している。

● 林地区 男性

2018年3月に神奈川県から移住して来た。現在、砺波市に住んで金沢市で働いている。

現在、若者を中心に、砺波市から市外（周辺都市）へ移住していく人が多くいる。空き家のリノベーションを図り、市内に留める施策が大事だと思う。

● 林地区 男性

杉木地内のほぼ中央部に前川がある。危険箇所が3か所あり、細いため溢水するため整備や改修が必要。また、フェンスなどの補修も必要。

● 林地区 男性

杉木自治会は現在374戸あり、更に売出中の分譲地が37戸分あり、今後すべて売却された場合410戸を上回り管理が大変になる。

戸数が増えると治安も悪くなる。最近の傾向として、ゴミ漁り、洗濯物の物色や空き巣等が発生し、パトカーの出動もある。実害はないものの住民にとっては不安な状況である。

最近、防犯灯の新設により、ゴミ漁りはなくなったが、今後戸数が増えても不安が無いように、防犯灯や防犯カメラ等の新設時に補助金制度があれば非常に助かる。補助金について検討をお願いしたい。

● 油田地区 男性

かいによは当地方特有のエコシステムであり、長い間人々の生活を支え、動植物の多様性の維持にも貢献してきたが、社会の変化により、より快適な暮らしを化石燃料に求めて、今日温暖化という大きな壁に突き当たっている。

かいによを守って行くためには、何より市民の皆さんの理解を深めてもらうことが大切だと思う。ダイオキシンのことも含め、市民の理解を深めるための取り組みを進めていただきたい。

クラウドファンディングにより動物達の保護施設の建設・運用に成功した自治体もある。当市でもそのようなクラウドファンディングのような取り組みを主導してもいいのではないかな。

● 油田地区 男性

「かいによりサイクル」の将来サイクルにバイオマス発電が取り上げられているが、事業として成り立たせるためには、燃料が安定して必要な量が供給され続けることが最も大切である。過去に仕事で発電所建設の検討を進めたが、この点がネックとなり断念したことがある。自然エネルギーによる発電は、多くの自治体が行っているが、なかなか成功例は少ないのが現状。燃料の供給までに留めておくのが賢明ではないかな。

また、剪定枝をわざわざ二酸化炭素をまき散らす車で運搬して燃やすのはエコとはいえないと思う。

● 油田地区 男性

富山県の社会的人口減少の年齢分布を見ると、近年20歳付近の流出が大きくなっている。特に若い女性の流出が顕著で、当市においても同様の傾向があると成人式の場などを通じて実感している。

このことは、将来の自然減の大きな要因となるため、「なぜ出て行くのか?」、「可能な対策は何か?」について考え、早めの対策が望まれる。

実態の把握には困難が多いと思われるが、是非、次回の計画の中で取り組んでいただきたい。

● 油田地区 男性

石丸地区(油田)は317戸あり、近郊では一番大きな自治会。防災対策として石丸公民館(2階建)があり、水害時の避難場所に指定されているが、耐震設備となっていない。地域防災対策として、石丸公民館を防災の拠点施設の位置づけとして補助金をお願いしたい。

石丸地区の避難場所は油田ふれあい体育館、同グラウンドとなっているが、2km以上離れており、体育館も150人程度しか受入できない。これでは現実の避難場所にならない。石丸公民館に充実した設備を整えることが石丸地区の住民を守ることになる。

砺波市の拠点となる市役所庁舎は、災害時の拠点運営が求められるが、その対策として防災対策の備えを持った新庁舎の建設が求められる。市役所庁舎を拠点として、市内の防災設備を充実させる必要がある。

県及び市の施設の防災運営はもとより、一般企業に対して万が一の場合の協力など、これまで以上に企業への協力要請も必要になる。

● 南般若地区 男性

地区の空き家の現状について調べたところ、空き家が14件あり、うち2件が危険空き家。地区内で700軒にアンケートをとり、9割の回答を得た。将来、空き家になる可能性があるとの回答が、195名、約1/3からあった。

危険空き家の解消対策の一つとして、空き家に対する税の低減措置はどうか。例えば、空き家になって10年間は税を低減し、その間に壊してもらおうというような施策を考えていただきたい。1073事業のように助成をお願いしたい。

また、ケアネット事業に空き家対策を含めればどうか。行政の体制についても福祉部局と建設部局が連携して進めて欲しい。

「空き家ハンドブック」は大変良くできている。是非、各自治振興会に20部ずつでも配付して欲しい。

● 南般若地区 男性

クリーンセンターとなみについて、平日働いている家庭でもゴミの運搬ができるよう、せめて土曜日の半日も営業してもらえるようにして欲しい。

● 南般若地区 男性

現時点では、剪定枝・落葉の処理が100%資源として活用されていないことから、資源として活用されるまで、焚き火程度はOKとしてほしい。

その際には、焚き火の方法を具体的に示して欲しい。

● 南般若地区 男性

高齢者に対する地域公共交通について、高齢者が手を上げれば通った車に乗車できる地域づくりをすればどうか。これを行うには、提供者と一般車の区別や利用料金の問題など、かなりの問題点があるが、将来的には前向きに考える必要があると思う。

● 南般若地区 男性

中高年及び高齢者などとのコミュニケーションや情報交換が必要。

交流できる環境作りとして、空き家等を利用した茶話会や百歳体操の拡充はどうか。

● 柳瀬地区 男性

散居村と団地内に空き家があるが、個人的な感覚では団地内よりも散居村の空き家の方が住むのに抵抗感が強いと思われる。散居村の景観を保全していくためにも、散居村の空き家の活用が大事だと思うが、何か対策は。

● 太田地区 男性

防災意識の向上について、県民や市民の防災意識はいまだに低いと感じている。なぜ防災意識が低いか、それは災害が起きないと思っているから、その根拠は立山が防いでくれる安全神話を信じているから、ではないか。

富山県は、過去からも大きな災害が少ないことから大丈夫だとの思い込みが強いと思う。行政としての県と市が一体となった防災意識向上の継続的な取り組みが必要と感じている。

● 太田地区 男性

減災のための「事前復興計画」の作成について検討をお願いしたい。事前復興は、防災意識の向上を図るための効果的な手段になると考える。近年の大災害と復興状況からも事前復興について取り組むことは、発災後からの復興対応に対して、はるかに減災と復興のスピードに効果があると事例からも言えるので考えて欲しい。

● 般若地区 男性

合併後の砺波市の人口は2%の減少に留まっており、他市町村に比べ格段に減少幅は少なく、後期計画の人口を現状に対し約2.5%減の47,000人を目標とされているのは理解できる。

しかし、庄東地区や旧庄川町地区は合併後20%以上も人口が減少しており、このままでは後期計画期間においてもこの傾向が続くと予想される。

市域の周辺部が衰退し、未来に活力を引き継げない地域とならないような施策を計画していただきたい。

● 般若地区 男性

地域の困りごととして空き家の問題がある。新聞で、倒壊寸前の空き家の強制執行について補助があるような記事を読んだ。今後の空き家対策の考え方や、補助金について教えて欲しい。

● 般若地区 男性

南砺市で農地付空き家を取得しやすくするための施策があると聞く。砺波市でも同様の取組があるか。

● 般若地区 男性

WAVE 5 「魅せる情報発信プロジェクト」について

一般的にいわれている「DX」により、取り残される人が発生しないように、「〇〇できるようになる」、「〇〇してくださいね」ではなく、「〇〇してあげられるようになる」という視点で取り組んでいただきたい。

今日までも、パソコン、インターネット等いろいろな技術によって「〇〇できるようになる」といってはいるが、できるようになるには、事前の機器設定は当然のこととして、機器購入や環境整備が必要になる。その時点で情報弱者には第1の壁となる。慣れた人や若い人には当然のことでも、高齢者等には何のことかさっぱりわからない。設定ができたとしても、使用している中で普段と違うエラーメッセージや画面が現れると完全に頭の中は真っ白。「わからないことは検索してみれば・・・」と言われても、どのように検索すればいいのか、検索するにはどんな言葉を入力すればいいのか、そんな具合。

最近では、新型コロナウイルスワクチン接種の予約やアンケート調査も「〇〇してあげられるようになる」の一例といえないか。

企業のなかには「DX」によって新たな付加価値を生み出せるよう、従来のビジネスの方法や組織を変革し、競争上の優位性を確立しようとするあまり、いわゆる使う側や情報弱者のことを忘れて、技術の自己満足に走ってしまいがちになる。

しかし、行政においては、あくまでも行政機関内部の効率化を図ることであって、住民に対して「〇〇できるようになる」との誘いのことばでもって「市民サービスの向上」とはいわないようにお願いしたい。かえってサービス低下ととられることもある。

何でもデジタル技術を導入すればいいというものではなく、目的や対象（者）がどうなのかという視点を忘れずに事業を進めていただきたい。

人が本来持つ可能性をDXによって失わせる又は減少させることのないように、適度なバランスで取り組んでいただきたい。

● 梅檀野地区 男性

梅檀野と梅檀山地区で補助事業により150台のiPadを導入する。デジタルの境目は70歳代と思っているが、なかなか外出できない高齢者もいる。

オンライン診療について、市ではどのように活用を考えられているか、また、受入体制はどうか。

● 梅檀野地区 男性

富山市で小中学校統合の話が出ている。旧山田村では学校は0になるそうだ。かつて、梅檀野小学校が庄東小学校に統合したが、その後、梅檀野地区は寂れていった。小学校の無いところに人は移住しない。小学校がなければ活気が生まれえない。このままでは般若地区の分譲地にも人が来ない。

庄東地区に小学校と幼稚園は残すようにして欲しい。

● 梅檀野地区 女性

1073事業のように移住の時の支援はありがたい。けれども移住を決断する際の大きな要件は、保育所や小学校などの子育て環境のこと。また、駅との距離やWi-Fi環境のことも要件。

子育て環境に関し、砺波の良い点をもっとアピールして移住促進を進めていただきたい。また、砺波らしさ、例えば一般的に授業で学ぶ「朝顔の観察」は、砺波だと「チューリップの観察」になるなど、「砺波らしさ」を考え、取り入れていていただきたい。

● 梅檀山地区 男性

今年のコスモスウォッチングは多数の来客があった。アクセス道路である県道山田湯谷線で大型バス同士のすれ違いができず、交通の流れに支障をきたしていた。地区から県に対して拡幅工事の陳情をしているが実現していない。側溝に蓋をかけるなどの簡易的な拡幅等も含め、市から県へ働きかけをお願いしたい。

● 梅檀山地区 男性

耕作放棄された農地について、雑草が繁茂し山林化している。こうした荒れた農地について農振地域から除外してほしい。市へ申請したが基盤整備された農地の非農地化は難しいとの回答だった。市外へ転出した人の農地が放置されたままで、土地改良区や用水土改からの賦課金を払わない人もいる。2代、3代と世代が移ると権利者の追跡もできなくなる。

● 梅檀山地区 男性

梅檀山からの市道福山栃上線の整備について用地買収済と聞いているが事業は進んでいない。土砂災害等で孤立化する恐れのある中山間地のためにも、事業を止めず、一歩でも前へ進めて欲しい。

● 東山見地区 男性

学校で空き家について勉強している。空き家情報バンクの活用を広く周知し、利用を促進するための施策について知りたい。

● 東山見地区 男性

総合計画の将来像は「庄川と散居が織りなす花と緑のまち」とうたっているが、計画の中にあまり水が出てこない。もっと庄川の「水」を資源として活かし、重要視してもらえないか。

● 東山見地区 男性

砺波市出身の東大教授が「がん教育の専門家」としており、一度、市へも授業の活用について提案があったと思う。学校教育における活用を考えられているか聞きたい。

また、ふるさと教育に取り組むとあるが、他地域や世界から見る視点を学ぶことも重要なことだと思う。

● 東山見地区 女性

「WAVE 4 選ばれる となみ（1073）暮らし応援プロジェクト」の中に、「県・市外に居住する若い世代を呼びこみ」とあるが、庄川地区に住む者としては、現在地元に住んでいる若い世代が他所へ転出していくことが大きな問題だと思う。原因としては

- ・やりたい仕事在地元で見つからない（企業の誘致）
- ・交通の便が悪い（公共交通機関の充実）
- ・近所づきあいがわずらわしい（コミュニケーションの理解）

など、色々あげられる。

これからの砺波市を考えると、5年、10年先に、地域の支えとなる中学、高校、大学世代が住み続けたいと感じられるまちづくりが必要ではないだろうか。

総合計画の策定や、庄川地区の公共施設の再編等、様々な検討の場では、主として60～70代の出席がほとんどであり、若い世代と感覚のずれもあると思う。

未来の砺波市を担う若い世代の意見をもっと取り上げ、話し合う機会を設けていただき、今後の施策に反映させて欲しい。

● 青島地区 男性

庄川水記念公園や周辺の舟戸公園は、植え込みの手入れや下草の刈り取りがなされ整備されている。しかし、お祭り広場やウッドプラザ、舟戸公園では、噴水台に水苔が付着し汚損していたり、木製ベンチが木の艶も無くなり古臭くなっている。

庄川水記念公園再整備事業で取り上げられている事は承知しているが、経年劣化で損傷や汚損が目立ち、砺波市の観光地としてイメージダウンであり、早急に整備が必要と思われる。

●青島地区 男性

耐震性のある公共施設（建築物＝箱もの）について、施設の耐用年数イコール建替えの考えでなく、建築の専門家による定期的な点検・確認により、計画的な修繕、改修工事を実施し、施設の長寿命化を図りたい。

また、庄川生涯学習センターは庄川町民のふれあいの拠点の場として建設された建物で、旧庄川町民にとっては長く残していきたい思いの詰まった重要な施設。施設の日常の管理は、市役所庁舎の管理のような考えでなく、地域住民が利用しやすく親しみのもてる管理を心掛けてもらいたい。

また、施設の長には、住民の思いをよく理解して施設管理をお願いしたい。

地域密着型施設の管理は地域に委ねてはどうか。

●青島地区 男性

洪水ハザードマップについて、平成30年の改訂版では、庄川の氾濫（越水）開始地点が変更となり、青島地区は示野地区を除く民家のあるほとんどの地域が早期の立ち退き避難が必要な区域になった。

砺波市地域防災計画の避難指示等発令基準では、避難判断流量について小牧流量観測所の流量と氾濫危険流量が変更となった。この避難指示等発令の判断流量の引き上げは、合口ダムの洪水流下能力との差が縮まることになり、これまでの発令から越水発生までの時間がより短くなる。自主防災会として早期の自主的な避難開始を呼び掛ける際の判断の目安となる情報の発信をお願いしたい。

また、合口ダム直上流からの越水となれば、背水現象により上流の小川原の川沿い地域の浸水が考えられるため、確認願いたい。

洪水時に小牧ダム上流域の平均雨量と中間地点のダムの流入量・放流量が分かるような情報の発信を関係機関（国・県・関西電力）に働きかけをお願いしたい。

洪水の流下能力不足指摘の施設の改修を関係機関に働きかけをお願いしたい。上流からの洪水の越水の流れにより住民の生命・財産、水田・畑、市の水源である上水場が浸水すれば、市民にとって大きな被害を被ることになる。

●雄神地区 男性

10WAVEプロジェクトにも位置づけられている「庄川水記念公園再整備事業」に大きく期待している。

サイクルトレインという自転車に乗ったまま電車に乗れる仕組みについて、JR城端・氷見線への導入を希望する。JRは庄川に沿って敷設されており、サイクリングロードで海まで行って、帰りはサイクルトレインを利用して戻る、このような仕組みがあって良いと思う。通学も便利になる。JR城端・氷見線を活性化して、人が乗りたくなる、使いたくなる仕組みを検討いただきたい。

●種田地区 男性

庄川親雪体育館のスロープに人工芝が敷かれているが、11年前に上部分を張り替えしてから下部分が手着かずで、劣化が進んでおり、このままだと使用禁止にせざるを得ない。新しく人工芝の張替をお願いしたい。

● 種田地区 男性

空き家対策について。種田地区は3年ほど前に市の「空き家への移住体験ツアー」で3組を迎え入れ、意見交換をし、非常に良い感触を持ったが、その後どうなったのかの報告がない。地域関わった場合はその結果等について情報開示いただきたい。

また、中野地区において、外国人の方が古い民家を購入されて住まわれたと聞いた。地区住民との事前の摺り合わせや、どういう経緯で購入されたかについて、参考としたため、情報があれば教えて欲しい。

● 種田地区 男性

今年ようやく4地区に営農組合が設立された。総合計画後期計画の個別施策26「生産基盤・経営体制の充実」と、個別施策27「地域ブランド化の取組支援」について、どのような支援策があるのか聞きたい。